

三陸の近景

⑬

居室訪問ボランティア養成講座

本紙が皆さんのお手元に届く頃、岩手県陸前高田市では居室訪問活動ボランティア養成講座（2月11、12日）が開催されています。

2011年冬から、年4回（仙台市2回、陸前高田市2回）のペースで実施してきた養成講座も通算14回目となりました。講座は、京都自死・自殺相談センターの協力で「死にたいほどの苦悩」を抱えた方とどのような関わりができるかの学びを深めます。

研修の前半は、参加者同士で対話を重ねる多様な価値観を受け入れるためのワーク。後半は、話し手と聞き手の両方の立場を体験し、気持ちをそのまま受け取る体験学習（プログラムの大部はこの



体験学習に時間を割きます）。

2日間の講座は参加者にとっても大変なものです。それでも、仮設住宅にお住まいの方を「ひとりぼっちにしたくない」という思いが共通の原動力になっています。地元の方々の危機意識は強く、ご自身も大変な思いをされながら「身近な方を放っておけない」そんな気持ちがこちらにも伝わってきます。こうした地元の方々を支

え続けることが、宗門の掲げる「すべての被災された方の悲しみに寄り添い、思いを分かち合う」一歩につながっていると感じています。

東北教区災害ボランティアセンターは、宮城県名取市と陸前高田市の仮設住宅の居室訪問活動を展開してきました。現在は、講座を受講した地元ボランティアによって運営されつつあります。来年度からこの方たちが中心となり、新しい訪問活動者のフォローや講座の講師役を務めることとなります。

3月で震災から丸4年、悲痛な思いを抱えていらっしゃる方に比べて、支援の数が十分でないのが現状です。今再び、私たちの目的「すべての被災された方の悲しみに寄り添い、思いを分かち合う」ことに一歩でも近づいているのか、今後どのような支援ができるのか、それぞれの立場で考えたいものです。（本願寺派総合研究所 研究員・金澤豊）